

「未来へのバトンをつなぐ」(2024年8月発刊)  
掲載事例のご案内

事例No 04 チームクリーン東濃 第三者承継(従業員承継)

2024年11月14日 ネットワーク会議  
岐阜県事業承継・引継ぎ支援センター  
第三者承継担当者

# 当該事例概要 【従業員(第三者)承継】

## ■事業者の概要+強み

- ・ 粉塵の吸引除去を設置する機械設備のメンテナンス事業者(個人事業 従業員2名)。
- ・ とある機械商社が導入する機械設備(集塵機)の中部地域メンテナンスを独占。

## ■事業業績の概観

事業収入は、毎年30百万円程度で安定推移。  
利益(所得)も年間10～15百万円の高収益事業者。

## ■事業者年齢、属性(事業承継理由)

65歳→引退志向強い。

## ■後継者年齢、属性

30歳→当社に職人かつ現場責任者(従業員)として勤務中。

## ■事業承継相談時における現況

- ・ 事業者→後継者に事業承継方針では一致(事業者は、後継者の技術と機械商社へのリレーション能力を高く評価)。
- ・ 一方、当事者間による事業承継の具体的な進め方については、特段、具体的な話し合いは行われてきていなかった。

※事業者及び後継者ともにいつでもできるものと考え、後回しにしていた。

～双方への遠慮などもあった(事業者、相談者ともに述懐している)～

# 当該事例のポイント(訴求点) 以下2点

## ■1点目

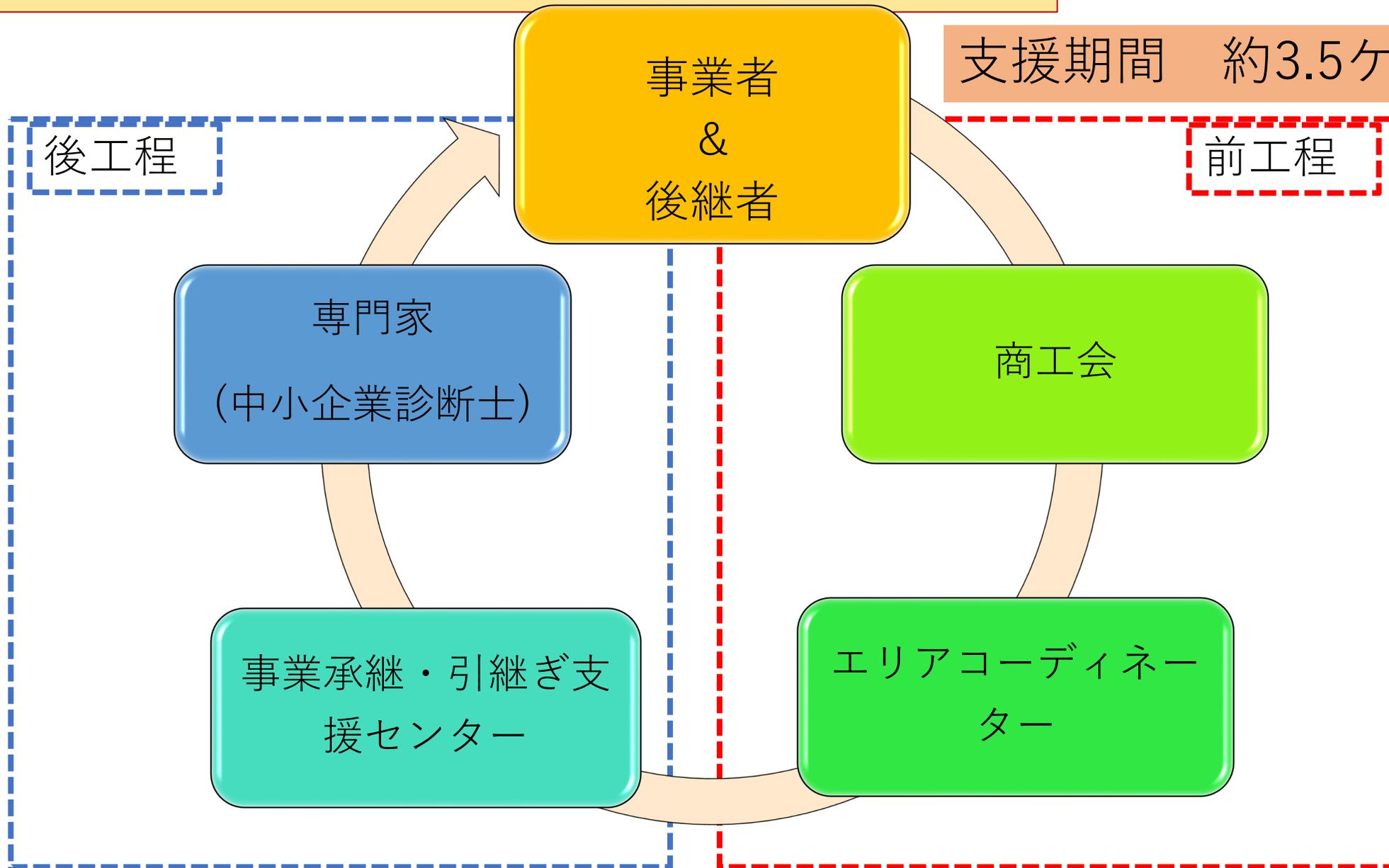
一次相談を請け負った商工会経営相談員からエリアコーディネーター、事業承継・引継ぎセンターによる支援まで、円滑かつ迅速な「支援の輪-ネットワーク」形成により、極めて短期間で支援完了した点。

## ■2点目

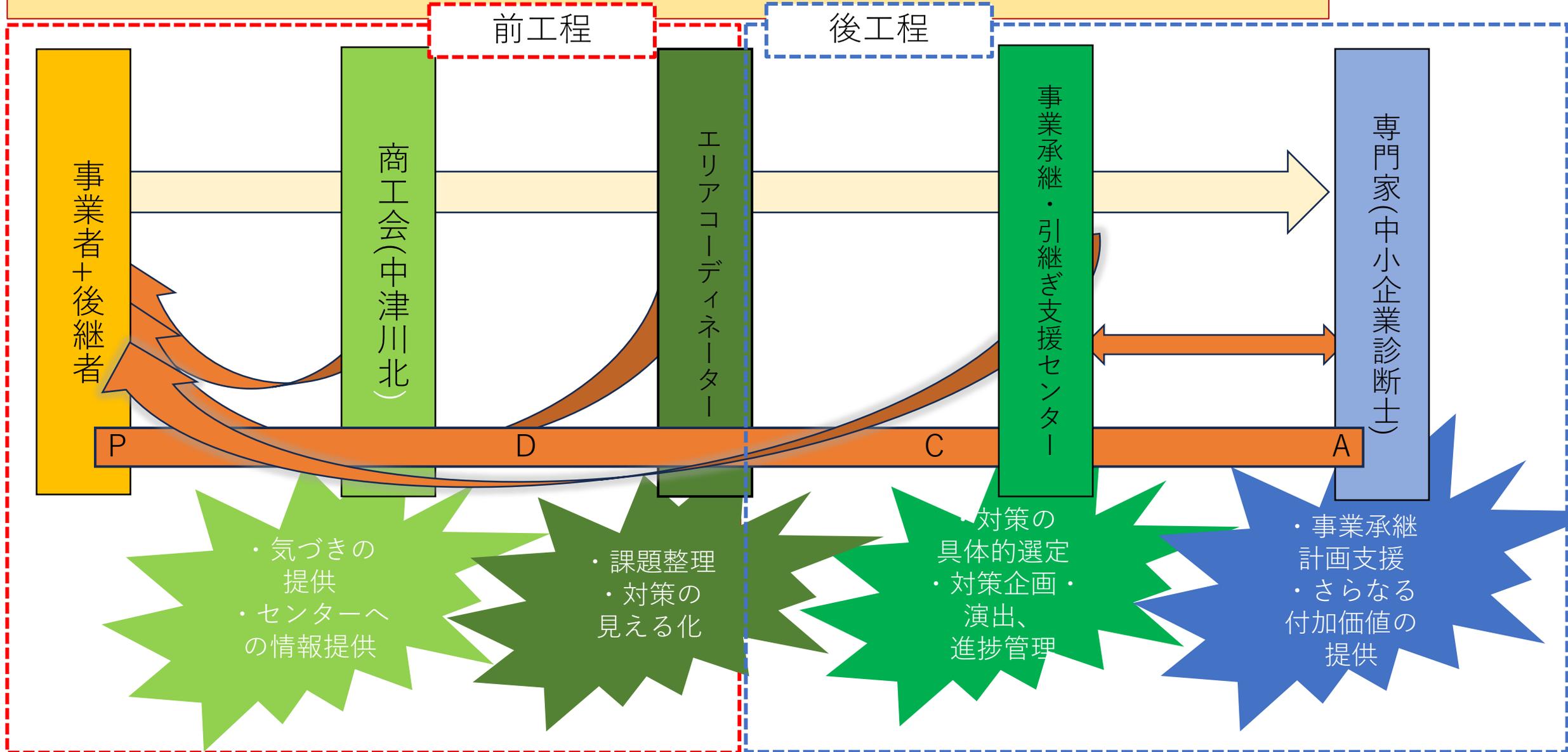
支援の前工程及び後工程で、各支援者が各々、担うべき役割を果たし、かつ丁寧かつ円滑な後方への橋渡しとPDCAにより、価値連鎖(バリューチェーン)を生じさせた結果、極めて顧客満足度の大きい事業承継支援事例となった点。

# 当該事例支援体制・手順(工程)

支援期間 約3.5ヶ月



# 当該事例支援スキーム・各支援者の役割



# 支援工程別(支援の輪)の主な担い手

## 前工程 担い手

- ・ 商工会経営指導員
- ・ エリアコーディネーター

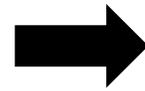
## 後工程 担い手

- ・ 岐阜県事業承継・引継ぎ支援センター第三者承継担当
- ・ 専門家(中小企業診断士)
- ・ エリアコーディネーター

※ 本事例のケースでは、専門家は、事業承継・引継ぎ支援センターの担当者が兼務して対応しました。

# 各支援者が果たした役割とその詳細～前工程～

商工会(経営指導員)



気づきの提供

- ・従業員承継のゴールには、解決していくべき様々な課題があることを訴求!  
※資金、事業所(不動産)、設備投資、営業及び事務処理体制・引継ぎ方法 etc。
- ・支援の輪への導き。

エリアコーディネーター



課題の抽出・整理、対策(解決策)の見える化

- ・事業者(妻女同席)、後継者から夫々の承継に関する考え方(思い)を傾聴。  
各々が抱く想いは、夫々「少しずつ」異なる点について具体的に示唆、指摘。
- ・その差分を穴埋めするための手法(対策)の概略案内実施。  
※関係者全員による事業承継計画の策定、事業譲渡契約の骨組み案内 etc。

# 各支援者が果たした役割とその詳細～後工程～

事業承継引継ぎ・支援  
センター第三者承継担当



対策の具体的選定、対策企画演出・進捗管理

- ・ 対策の具体的な選定とその目的、必要性について関係者全員に案内、助言。
- ※このケースの場合、事業承継計画の策定(5年間)、事業譲渡契約の雛形の案内で決定。
- ・ 対策遂行のための役割分担及び遂行状況の観察、進捗管理の実施。

専門家(中小企業診断士)



- ・ 事業承継計画策定支援。
- ・ さらなる付加価値の提供(創業者支援)。

- ・ 関係者全員と数回の話し合いの場を設定(話し合いの場は、商工会会議室を利用)。
- ファシリテーターの役割を担い、各々の想いの違いの調整と事業承継計画の策定をリード。
- ・ (後継者に向けて)創業支援の展開。
- ※創業計画の策定支援、金融機関との交渉事項想定問答(Q&A)レクチャー、法人化に向けての検討ポイントの助言、商工会議所主催創業塾の参加推奨 etc。